

講演概要

「茶の湯とはなにか?」

神津朝夫

粉末の緑茶（抹茶）に湯を注ぎ攪拌して飲む中国の古い喫茶法が、日本に伝わって 300 年を経て独特の茶の湯に発展した。その稽古・修行が茶道となり、広間で菓子一つで薄茶一服を飲む現代の茶会は、茶道の発表会といえる。本来の茶の湯は、狭い茶室に数人が集まり、和食（懐石料理）を食べ日本酒を飲み、独自の栽培技術による色鮮やかな緑茶を飲み、その陶器や漆器などの道具を鑑賞して楽しむ宴会である。茶の湯は日本の技術、芸術と文化を集約した小宇宙といえる。

茶の湯について近年の新しい茶の湯研究の展開も含めて紹介したい。

講演者プロフィール

神津朝夫（こうず・あさお）

1953 年東京生まれ。早稲田大学経済学部卒業。早稲田大学大学院商学研究博士課程前期終了後、コンラート・アデナウアー財団の奨学金を得てマンハイム大学に 2 年間留学。帰国後、外資系証券会社勤務を経て、茶道研究の道へと転身する。帝塚山大学大学院博士後期課程修了後、博士号取得（学術）。専門は日本文化史・茶道史。京都芸術大学助教授を経て、現在は執筆業に専念。世界に茶の湯の文化を広める活動に尽力している。

主な著作

『茶の湯と日本文化』（淡交社）2012 年

『千利休の「わび」とはなにか』（KADOKAWA）2015 年

『茶の湯の歴史』（KODOKAWA）2021 年

『利休・織部・遠州 くらべる茶の湯』（淡交社）2023 年

資料提供：裏千家淡交会ベルリン協会 作成日：2025 年 5 月 20 日